

普及活動情勢報告（令和2年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

高西地区の農業振興に向けて生産組織代表者と意見交換 ～農業振興意見交換会の開催～



意見交換会の様子

1月31日、JA高知県四万十支所大ホールで、農業振興意見交換会が開催され、JA高知県四万十生産組織代表者や、JA高知県高西地区、町役場、高知県農業振興部の職員等64名が参加しました。

普及所は、管内の担い手や基盤、生産の状況等について、農林水産省、県農業振興部の統計情報などを用いて説明しました。

生産組織代表者からは、「地元の農畜産物を使った『ニラ豚』を四万十町の地元料理としてPRしたい」「大型特殊免許（農耕車限定）の取得支援をお願いしたい」等の支援要望などがありました。

普及所は、今後もJAなど関係機関と連携し、高西地区の農業振興に取り組んでいきます。

経営・栽培管理システムの機能改善に向けて ～スマート農業意見交換会の開催～



システムの改善要望について説明する参加者

2月6日、スマート農業の実証経営体である営農支援センター四万十（株）で、経営・栽培管理システム「アグリノート」の開発会社とシステムの機能改善に向けた意見交換会を開催し、実証経営体から3名が参加しました。

実証経営体からは「作業の進捗状況を地図上で色分けしてほしい」「水田の水口などの情報を地図で確認できるようにしてほしい」などの要望があげられました。開発会社は、要望を基にシステムの改善点を取りまとめ、改善内容を決定していくこととしました。

普及所は、今後もスマート農業に関する現場の声を発信しつつ、実証事業を通じて法人経営体の経営改善を支援していきます。

女性生産者を対象に視察研修会を開催！ ～JA高知県四万十ニラ部会の開催～



そぐり作業を視察する女性生産者ら

2月10日、JA高知県コスモスそぐりセンター及び現地圃場で、JA高知県四万十ニラ部会の女性生産者を対象に視察研修会が開催され、女性生産者4名が参加しました。

女性生産者からは「そぐり作業の様子を家族にも見せたい」という意見や、「ニラを流すときに何に気を付けていますか？」という質問、「これまで交流が無かった女性生産者同士の横のつながりを広げることができた」などの感想等が聞かれました。

普及所は、今後もJAと協力して女性生産者を対象とした活動を広げるなど、部会活動の活性化にも取り組んでいきます。

ユズの生産安定は剪定から ～JA高知県四万十支所ユズ生産部会剪定講習会の開催～



剪定の実演の様子

2月19日、現地圃場2カ所で、JA高知県四万十支所ユズ生産部会剪定講習会が開催され、生産者12名が参加しました。

普及所は、剪定技術についての講義を行い、その後、実際の樹を使った剪定の実演講習を行いました。

生産者からは「剪定によって樹の内部に光が入るようになった」「この枝は剪定した方がよいのではないか」といった声が聞かれ、剪定の重要性について理解が深まりました。

普及所は、今後も剪定や栽培技術について指導を行い、ユズの生産振興を支援していきます。

米の川地区基盤整備後の営農計画の実行に向けて ～第2回営農会議委員会の開催～



水稻の作付けについて
検討する委員ら

2月4日、米奥集会所で、第2回営農会議委員会が開催され、米奥土地改良区理事や委員である生産者7名が参加しました。

米の川地区では、基盤整備後の営農計画の実行に向けた検討の場として営農会議委員会を設置し、1月27日から委員会を開催しています。

来年度から、営農組合が基盤整備地外の農地を含め約2haへ水稻を作付をすることになりました。委員からは「営農組合が、水稻を作付けし営農していくことで、集落営農の法人化に道筋をつけていこう」ということになりました。

普及所は、今後も関係機関と協力しながら、研修会や集落での話し合いを通じて、集落営農の法人化を支援していきます。

四万十町産米のブランド化に向けた販売促進 ～JA高知県四万十エコ栽培米部会の開催～



店頭での販売促進活動
の様子

2月7～8日、東京都の米穀店で、JA高知県四万十エコ栽培米部会が生産する品種「にこまる」と「ぴかまる」の販売促進活動を行い、生産者3名が参加しました。

販売促進活動では、米の販売や試食、消費者のアンケート調査を行いました。消費者からは「食べ比べると、食味、食感の違いがはっきり分かる」「高知県はお米産地のイメージがない」といった感想等がありました。

また、生産者からは、「自分の作った米がどのような客に売れるのか分かり勉強になった」といった声が聞かれました。

普及所は、今後も関係機関と協力し、四万十町産米の認知度の向上や、ブランド化の取組を支援していきます。